

TOYOTA MARINE

Ocean Style

Aug 2013
Vol.1



トヨタの
クルーザーで
人生を豊かに

Tomorrow is another ocean.



THE PREMIUM OF PREMIUMS



さらに深化した美しさ。さらに進化した快適性。

PONAM-35swは、従来のドライブアシストにバーチャルアンカーシステムを追加し、トヨタマリン独自の操船支援システムをさらに充実させています。

インテリアには木目調デザインを採用するなど、すべてにこだわり抜きました。

あなたを待っているのは、さらなる上質な「海の遊び」です。

35 SW

Premium Cruiser

PONAM-35sw

Debut!

試乗会の開催日などのご案内は、ホームページまたは、フリーダイヤルまでお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社 マリン事業部 トヨタマリン営業所 〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町2丁目1番地 ☎0120-532-451 www.toyota.co.jp/marine/

※写真は撮影用小物、オプションパーツ等を含む特別仕様艇です。

Contents

- 004 **巻頭言**
創刊によせて トヨタ自動車株式会社 常務役員 友山 茂樹
- 006 **PONAM EVENT REPORT
K TOUCH MARINE CLUB PREMIUM CRUISE**
— TALK SHOW —
「LFA 開発ドライバーが考える 走る楽しさ 海の魅力」
レーシングドライバー 木下 隆之
×
トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長 豊田 章男
— TEST CRUISE —
天王洲 (CYC) ~羽田沖 TOYOTA PONAM-35
— PONAM Series — PONAM-35SW & PONAM- 28Ⅲ & PONAM- 28L
- 018 TOYOTA MARINE PARTNERSHIP
『K TOUCH』プロジェクトマネージャーインタビュー
「日本に本物のクラブを根付かせたい」
株式会社サンジ・インターナショナル 取締役 荒川 由紀
- 020 **FUN TO CRUISE**
— クルーズオーナーに聞く 「私とクルーズの距離感」 —
PONAM オーナー オリオン歯科 院長 櫻田 雅彦氏
リーボオーナー 株式会社榊原 代表取締役 榊原 龍之氏
- 026 トヨタマリンスタッフに聞く！
「今、トヨタマリンを選ぶ理由」
- 030 MARINA DIVIDE — マリーナ探訪 —
徹底活用 ラグーナ蒲郡
- 034 クルーズで行くレストラン — Gastronomy Cruising —
“伊勢志摩キューズ” 合歓の郷ホテル&リゾート 「ザ・ダイニングルーム」
- 036 W knows 持ってるオンナは知っている
女性の視点が広げる可能性 女性×クルーズ=∞
- 038 **100人アンケート クルーズに関する意識調査速報！**
相対的にクルーズを取り巻く環境が遅れていると言われる日本。クルーズやマリーナに関する100人アンケートを通して、現状を把握するとともに、将来のクルーズライフのヒントを探る。
- 042 試乗会情報
044 販売代理店一覧
045 PONAM 掲示板
046 編集後記

TOYOTA MARINE

創刊によせて ～ Fun to Cruise ～

私たちは1997年のマリン事業の創業以来、「モビリティの創造を通じて豊かな社会作りに貢献する」理念に基づき、様々な取組みを進めてまいりました。そして、海上においても多くの人に“Dream = 夢”をご提供していきたいと考えています。

自動車の歴史は100年ちょっとですが、船の歴史は実に紀元前にまでさかのぼることができます。日本は海洋国ですから、当然昔から商船や漁船の文化はありました。実は船遊びの文化も同じころに生まれているのですが、21世紀の今現在まだまだそれが浸透しているとは言い難いのが実情です。日本では「船＝釣り」というイメージが強く、なかなか海外のような多様な楽しみ方が想像しにくいのかもしれません。クルーザーで何をしたらいいのか、維持管理はどうしたらいいのかなど、マリンライフに触れる機会が少ないことに起因する多くのハードルがあります。

そのような現状に変革を起こし、豊かで新しいマリンライフの提案を目的としてこの『TOYOTA MARINE Ocean Style』を創刊しました。「トヨタのクルーザーで人生を豊かに」をコンセプトに、すでにクルーザーを楽しんでいる方にも、まだクルーザーの魅力に触れたことのない方にも有益な情報を提供していきたいと考えており、そして、この情報誌を通して日本のマリンカルチャーの発展に貢献することが当社の使命であると考えています。

今後とも『TOYOTA MARINE Ocean Style』をご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。



トヨタ自動車株式会社 常務役員
友山 茂樹



PONAM EVENT REPORT K TOUCH MARINE CLUB PREMIUM CRUISE

2013年6月15日、澄んだ青天と穏やかな風に恵まれた、まさに最高のクルージング日和の中、東京品川のクリスタルヨットクラブで「K TOUCH MARINE CLUB プレミアムクルーズ」が開催された。



「サ
プ
ラ
イ
ズ
フ
レ
ン
チ
フ
ロ
ム」
から
始
ま
っ
た
ト
ー
ク
シ
ョ
ー

極上のフレンチに舌鼓を打ちながら、談笑する招待客の前に椅子が設えられる。当初予定されていたよりも椅子が一脚多い。LFAとポーンナム35の映像が流れた後、司会者が登壇し、トークゲストが紹介されると、まずレーシングドライバーの木下隆之氏がグレーのジャケットにグリーンのパンツ姿で登壇した。そして、「まさか来るとは思わなかった」と招待客を

LFA

世界 56 カ国、500 台限定で販売された 2 ドアクーペタイプの超高性能スポーツカー。最高速度は 325km/h を超える。

PONAM

トヨタ自慢のエンジンと技術の粋を結集して快適な乗り心地を実現したクルーザー。詳細は P.15 ~ P.17 を参照。

K TOUCH MARINE CLUB

PONAM を通じて海の楽しさを知ってもらい、会員相互の親睦を深めるためのマリクラブ。詳細は P.18 ~ P.19 を参照。



TALK SHOW

「LFA 開発ドライバーが考える 走る楽しさ 海の魅力」

レーシングドライバー
木下 隆之

×
トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長
豊田 章男

豊田社長の登場でスタートしたトークショー。突然のサプライズに会場が一瞬驚きに包まれるが、トークが弾むにつれて会場の空気も和やかなムードに落ち着いていった。豪華なフレンチに舌鼓を打ちながら、徐々にトークは盛り上がりを見せていく。

初。世界的に見ても異例である。代表取締役社長としての参戦は、今回は3度目となるが、身も、2013年にニュルブルクリンク24時間耐久レースにLFAで参戦。今回は3度目となるが、代表取締役社長としての参戦は初。世界的に見ても異例である。

レース好きで知られる豊田氏自身も、2013年にニュルブルクリンク24時間耐久レースにLFAで参戦。今回は3度目となるが、代表取締役社長としての参戦は初。世界的に見ても異例である。

驚かせたのが、サプライズゲストとして登場したトヨタ自動車株式会社代表取締役社長の豊田章男氏だ。

会場にいた誰もが豊田社長の登場に驚き、思わず料理を口に運ぶ手を止めてしまった招待客もいた。この驚きがいいアクセントとなり、トークショーが始まると誰もが楽しげに耳を傾けていた。

LFAを共に開発して

豊田氏と木下氏は共にLFA開発を行ってきた間柄だ。木下氏はLFA開発ドライバーとして、世界一過酷なサーキットと称されるドイツのニュルブルクリンク24時間耐久レースで走行テストを行うなど、開発の段階からLFAに関わってきた。初めてLFAで参戦したのは2008年。ニュルブルクリンク4時間レースでクラス優勝に輝いた。まさに、トヨタ自動車の技術力と、木下氏のレーシング技術があったからこそなされた栄光だ。



トークが進むにつれて、PONAM-35の技術やデザインについての深い話に、二人の会話も波に乗る。時折冗談を交えながら進むトークに、会場からは笑い声もこぼれていた。開発に携った二人のトークに、会場は終始和気あいあいとした雰囲気包まれていた。

「みんな選手として接してくれるし、レースは人もチームワークも鍛えられる」と語ったように、雨が降る極限状態の中、チームワークで試練を乗り越えた経験は、トヨタ自動車のモノづくりにも確実に活かされているのだろう。

きっかけは「水上バイク」

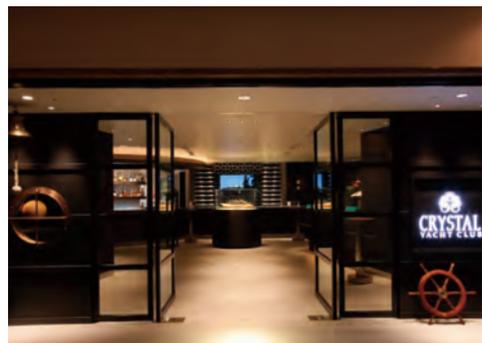
LFAやレースにおいて親交が深い豊田氏と木下氏。船とかかわりを持つようになったきっかけは、くしくも同じ「水上バイク」。20〜30年前に水上バイクを見た木下氏は、その瞬間運命的なものを感じたという。その後、同じレーシング仲間がボートに乗っていることから、徐々にボートに興味を持つようになり、木下氏もボートに乗るようになった。「車が坂道でも自由にスツと行けるように、船は水上を自由に行くことができ」。木下氏にとっては、陸上と海上の違いこそあれ、車と船は同じように琴線に触れるもののようにだ。「しかもエンジンがついている」とレーシングドライバーらしくエンジンに対するこだわりを見せた。

木下氏と船とのかかわりはこれだけではない。実は日本ボート・オブ・ザ・イヤアの選考委員も務めているのだ。日本ボート・オブ・ザ・イヤーは、日本国内で販売されるモーターボート（PWCを含む）の中から、年間を通じてもっとも優秀なボートを選定する賞である。木下氏以外にもレーシングドライバーの選考委員は多い。木下氏は「例年拮抗した中で大賞が決まることが多いけれど、2012年のボートショーではポーンナム35がぶっちぎりだった」と感嘆する。

レクサスを彷彿とさせる技術とデザイン

木下氏が心から感嘆してしまうくらい、ポーンナム35には快適さとテクノロジーが詰まっている。

「ハル（船体）がアルミできていて、波切りがすごくいい」と木



今回のイベント会場となった東京・天王洲のクリスタルヨットクラブ。都心からわずか20分の海辺のオアシスと呼ぶにふさわしい設備を誇る。

下氏が称賛するように、試乗した誰もが「揺れが少なく乗り心地がいい」と感想を口にしている。アルミ製のハルを採用しているのは、日本のプレジャーボートではポータームだけだという。

エンジンにはクルマづくりの技術が生かされており、低燃費・低騒音でありながら、力強い走りを体感することができる。他にも、ジョイスティック1本で誰でも簡単に操船できたり、GPSの入力だけで船を留めておくことができたり、様々なところにトヨタの技術が遺憾なく発揮されている。

「ポーターム35はしつけがいいんですよ。ステイと言えばずっとそこに留まりますからね」。豊田社長が犬に例えたように、ポーターム35は海上における停船が実に簡単に行える。「こういうのを作られると困りますよ。海で腕の見せ所がなくなってしまうから」と木下氏が冗談交じりに言うほど、ポーターム35のシステムがいかに優れているかがわかる。

もちろん、デザインも素晴らしい。レクサスデザインチームがデザインした船体は、これまでのクルーザーとは全く違う斬新なフォルムを持っている。その真骨頂は、もちろん海上を走行するとき



ニュルブルクリンク 24 時間耐久レースに参戦した豊田氏と木下氏。LFA 開発だけでなく、レース仲間としての親交も深い二人は、世界一過酷なレースに参戦しているとは思えないほど、楽しげな表情だ。

の流線的な美しさ。まさにアバンギャルドと云っていい。豊田氏の「自分の隠れ家のような場所にした」という言葉どおり、インテリアは高級ホテルの一角にいるかのように洗練されている。木下氏もそのインテリアを初めて目にしたとき「衝撃的だった」と感想を漏らしたそう。白と黒を基調としたインテリアにも、レクサスのカラーデザインが活かしている。キャピンは、白のルーフとウオー



エレガントに海上を走行する PONAM-35SW の勇姿。美しいフォルムもさることながら、素晴らしい性能を持つ PONAM-35SW は、日本のクルーザーライフの先達としての役割を果たすことになるだろう（編集長）。

「まさに船のオートマと言えるのが

このポーナム35のTDAなんです」



ルに対してL字ソファや調度品は黒く、実に鮮やかなコントラストを描き出している。「こんな内装は他にはない」と感想が漏れるのも当然だ。

新しいマリンライフの創出

ポーナム35の最大の貢献は、クルーザーに対する敷居を下げたことだ。「様々な理由から、これまでは海に対する敷居が高かった。

初めての人も安心して乗れることによって、その敷居を低くしたのがポーナム35だと思うんです。もっともっと進化して、船で通勤できるようにするといいですね」と木下氏が語るように、誰でも簡単にできる高い操作性は、確実に技術的なハードルを下げることに成功している。豊田氏も「車も昔はマニュアルのみで、オートマなんてなかった。まさに船のオートマができたようなのが、このポーナム35のTDA（トヨタ・ドライブ・アシスト・ジョイスティックによる自在な操作）なんです。簡単に操作できるようになったことで、海へ行ってみようという敷居が下がり、シーライフやマリンライフを楽しむ時間が増える。これからそのお手伝いをしていきたいですね」と日本を代表する自動

車メーカーらしく、車に例えて魅力を語った。

優れた操作性と、今までにないデザインを生み出すことによって、新しいマリンライフを創出したポーナムは、「釣り船」というイメージを一新し、自分だけの特別な空間という感覚を確実に植えつけた。ポーナム35は、間違いなくこれからのクルーザー界を牽引していく一艇になるだろう。

30分という短いトークショーながら、聞き終えた招待客からは充実した表情が見て取れ、惜しみない拍手が送られた。豊田氏と木下氏のクルーザーに関する豊富な知識と、楽しいトークを聞き、優雅なクルージング、船上パーティー、クルーザーからの花見や花火見物などの新しいクルーザーライフを描くことができたことで、クルーザーへの関心が大きく膨らんだようだった。特にトークショーの前にテストクルーズを行った方たちの表情は、クルージングをまた楽しみたいというような満足感に満ちていた。

【プロフィール】

■木下 隆之

1960年生まれ。レーシングドライバー。日本ボート・オブ・ザ・イヤー選考委員。
1983年からレーサーとしての活動を開始し、スーパー耐久では最多勝記録を更新中。海外レースにも積極的に参戦し、1990年からシャモニー、1991年からスバフランコルシャンに参戦している。ニュルブルクリンク 24時間耐久レースでは、日本人最多出場を誇り、日本人最高位（総合5位）を記録。

■豊田 章男

1956年生まれ。トヨタ自動車株式会社代表取締役社長。
1979年慶応義塾大学法学部法律学科卒業。1982年マサチューセッツ州のバブソン大学にてMBAを取得。1984年にトヨタ自動車株式会社へ入社。生産管理や国内営業を担当の後、Gazoo事業部主査兼国内業務部業務改善支援室主査等を経て、2000年に取締役に就任。その後調達部門や中国事業等を担当後、2009年代表取締役社長に就任。2012年から日本自動車工業会会長に就任。



豊田社長が「自分の隠れ家のような場所にしたい」と語る PONAM-35 の操舵室。洗練されたインテリアもさることながら、この中には誰でも簡単に操舵できるほどの高い操作性を実現させたトヨタの技術の粋が結集されているのも見逃せないポイントだ。豊田社長が「自信を持ってお褒めする」というのうなづける。

TEST CRUISE

天王洲 (CYC) ~羽田沖

TOYOTA PONAM-35



期待に胸を膨らませ 出航する東京湾クルーズ

トークショーの前と後の2回に分けてポナム35のテストクルーズが行われた。イベント前に入念にメンテナンスされたポナム35の船体は、海や空の青さとは対照的に日の光を美しく反射し、これから始まるテストクルーズを優雅に待ち望んでいるように見えた。

テストクルーズの時間になると、クリスタルヨットクラブのクラブハウスから乗客がゆっくりと外へ出はじめる。クルーザーに乗船するために浮桟橋へと向かう乗客の足取りは軽く、表情はこれから始まる優雅なクルージングに対する期待に満ちていた。浮桟橋に停泊した2艇のポナム35に乗客が乗り込むと、船体が穏やかに揺れる。

しばらくしてポナム35が出航。ゆっくりと船体が東京湾へ向けて進んでいく。浮桟橋にはクルージングを楽しんでほしいという思いで見送る人たちの姿が並んでいた。その人たちの思いにこたえるように、しばらくの間ポナム35はゆったりとしたクルージングを続けていた。そして、品川埠頭を回ったあたりから徐々にス

スピードが上がっていくのにあわせて、乗客の期待も上昇していくようになった。「乗り心地が全然違う」と誰もが口にするように、スピードを上げてても船体は安定したまま、アルミ製のハル（船体）が鋭く海面を切り進む。強い日差しが燦々と降り注いでいたにもかかわらず、心地よい風と波しぶきで暑さなどどこかへ行ってしまったようだ。



京ゲートブリッジだ。恐竜橋とも呼ばれるように、真下から見上げる東京ゲートブリッジの迫力に思わず圧倒されてしまう。その迫力ある景色を堪能すると、いよいよクルージングも折り返しとなる。キャビンのL字ソファに座った人からは「ほどよい柔らかさで座り心地もいい」と自然に笑顔がこぼれた。「ほかのクルーザーとは内装が全く違う」と感嘆を漏らしながら、まるで童心に帰ったかのように嬉々とした瞳でひとつひとつのインテリアを眺める人もいた。キャビンでの落ち着いたひとと



ひととき歓声が上がる。その真上を航空機が滑空していったのだ。普段見ることができないその迫力のあるアングルは東京湾クルーズならではの醍醐味で、東京ベイエリアのクルーズでは特に人気の高いスポットのひとつになっている。その大迫力の航空機を目の当たりにすると「乗るとやっぱり欲しくなっちゃうね」というのも当然かもしれない。さらにしばらく進むと、目の前に恐竜が向かい合ったような特徴的な形をした橋が見えてくる。2012年に開通したばかりの東



きを過ごしている間に、ポーター35はお台場へと到着していた。右手にフジテレビの球体が見え、目の前にレインボーブリッジが姿を現すと、船内の雰囲気が高揚していくのがはっきりとわかる。誰もが知っている橋の真下で停船すると、まるで橋が迫りくるような感覚になる。レインボーブリッジの前で行われた写真撮影では、この特別なクルージングを満喫した笑顔で溢れていた。



「乗ると欲しくなる」

試乗するだけと思っていたんだけど、やっぱり乗ると欲しくなるね。乗り心地が全然違う。前に何艇か別のクルーザーに乗ったけど、普通はもっと船体が海面をパンパンと叩くように揺れる。だけど、ポーター35は本当に揺れが少ない。内装も全然違うし、こんなにインテリアにこだわったクルーザーは日本じゃ初めてじゃないかな。それに、羽田の飛行機は迫力があったよかった。あんな間近に真下からなんて普通は見られないからね。



「またぜひ乗ってみたい」

試乗会なんてなかなか身近にないから、今日クルーザーに乗ることができてとてもいい経験になった。クルーザーに乗るのは初めてだけど、もつと揺れて酔うのかと思っていただけから、こんなに乗り心地がいいとは驚いた。それに、クルーザーは煙が出たり臭いがしたりするって聞いていたけど、ポーター35はほとんどそれがありません。機会があればぜひまた乗ってみたい。



「まさか豊田社長が!」

全く聞いてなかったから、サプライズゲストで豊田社長が登場したときは本当に驚いた。目の錯覚じゃないかと思ったよ。トークショーもポーターのことでだけじゃなく、LFA開発やレースの話も聞けて、とても楽しかった。社長になってからニュルブルクリンクのレースに参戦した話は知っていたけれど、やっぱり改めて聞くとびっくりするね。スケールが違う。こういうサプライズがあるイベントは楽しくていいね。



PONAM series

- 海と人とを繋ぐ3つのPONAM -

2011年に「日本ボート・オブ・ザ・イヤー」と「グッドデザイン賞」をW受賞したPONAM-35。これまでにトヨタマリンが培ってきたPONAMシリーズの技術を余すことなく取り入れたPONAM-35の最大の特徴は、初心者でも簡単に操船が可能な優れた操作性だ。ジョイスティックの操作ひとつで離着岸が容易に行えるTDA（トヨタ・ドライブ・アシスト）、GPS入力ひとつで停船ができるTVAS（トヨタ・バーチャル・アンカー・システム）など、最新の技術が盛り込まれている。インテリアも白と黒を基調としたものだけでなく、美しい木目調のPONAM-35SWも用意し、まさにプレミアムクルーザーにふさわしいコンバーチブルだ。



PONAM-35SW

全長／全幅	11.95m/3.94m
総トン数	10トン
エンジン型式	M1VD-VH
エンジン出力	272kW (370PS) x 2基
ハル	アルミ合金製
燃料タンク容量	850リットル
清水タンク容量	170リットル
定員	12名（フライブリッジ 5名）
航行区域	沿海
ヘルムステーション	1
インテリアカラー	木目調
本体メーカー希望小売価格	62,790,000円（税抜59,800,000円）

自分に最適なポーンナムが
きっとあるはずだ

右ページの試乗会で使用されたポーンナム35は、クルマづくりで培われたノウハウを余す事なく詰め込んだトヨタマリン珠玉の一艘だ。その性能をぜひともチェックしていただきたい。

また、クルーザー初心者向けにはポーンナム28シリーズも見逃せない。多くのクルーザーオーナーが最初に購入するクルーザーは、このクラスのものが多いからだ。

次ページで紹介しているポーンナム28Ⅲ、ポーンナム28Lの2艇も要チェックだ。（編集長）

PONAM-28Ⅲ

PONAM-28は、1997年に登場して以来、実に300艇を超える進水実績を誇るクルーザーだ。PONAM-28Ⅲはその3代目。オーナーの声を常にフィードバックしながら、今も改良を重ね続けている。

28フィートクラスでは最大級の広さを誇るアフトデッキ。5人が座れるほどの広々としたスペースは、釣りをはじめ、海風を感じながらパーティーを楽しんだりするなど、様々な使い方が可能。

船内にはエアコンを標準装備し、暑い夏にも快適なクルージングが楽しめる。またゆったりとした調理スペースを確保したギャレーや、冷蔵庫、電動マリントイレなど、細かな部分にも気が配られていて、オーナーにとっては嬉しい限りだろう。



PONAM-28Ⅲ

全長／全幅	10.25m/2.95m
総トン数	5トン未満
エンジン型式	M1KD-V
エンジン出力	136kW (185PS) x 2基
ハル	アルミ合金製
燃料タンク容量	550リットル
清水タンク容量	85リットル
定員	12名
航行区域	平水、限定沿海、沿岸、沿海
本体メーカー希望小売価格	26,460,000円(税抜25,200,000円)

PONAM-28L

フィッシング好きにおすすめなのが、このPONAM-28L。フィッシングに最適なウォークアラウンド・スタイルのエクステリアには、いけすにもなる大容量の収納ボックスをはじめ、フィッシングギャレー、デッキウォッシュなどフィッシングのための設備が充実。まさに釣り好きのためのクルーザーだ。

もちろん、船内エアコンや座り心地のよいソファなど居住空間としての快適性も兼ね備えている。

また、標準設備を一部オプション化することで、自分のスタイルに合った選び方ができるのも、PONAM-28Lの大きな魅力のひとつである。



PONAM-28L

全長／全幅	10.25m／2.95m
総トン数	5 トン未満
エンジン型式	M1KD-V × 2 基
エンジン出力	136kW (185PS) × 2 基
ドライブ形式	二重反転プロペラ
ドライブクラッチ形式	油圧クラッチ
ハル	アルミ合金製
燃料タンク容量	550 リットル
清水タンク容量	85 リットル
定員	12 名
航行区域	平水、限定沿海、沿岸
本体メーカー希望小売価格	18,690,000 円 (税抜 17,800,000 円)



年2回発行のクオリティライフスタイル誌『K TOUCH』 ファッションブルなデザインで統一された見応えある会員誌だ。

『K TOUCH』プロジェクトマネージャーインタビュー 「日本に本物のクラブを根付かせたい」

株式会社サンジ・インターナショナル 取締役 荒川 由紀

インタビュアー 本誌編集長 増渕 達也

TOYOTA MARINE PARTNERSHIP

トヨタはパートナーとともに

ポーターナムとともに 提案するプレミアムな マリンスライフ

『K TOUCH』がクラブインクラブとして9月に発足を予定している「K TOUCH MARINE CLUB」。プレミアムなマリンスライフを通じてK TOUCH会員の親睦を深めることを目的とし、トヨタマリンとのパートナーシップによるポーターナム35とポーターナム28Ⅲの2艇を使用したさまざまなイベントが企画されている。

お花見・紅葉クルージング、花火観覧クルージング、ナイトクルージングのほか、カジキ釣りや著名人との同船フィッシング、伊豆大島でのシュノーケリングや羽田空港沖での航空機フォトコンテストなどが予定されており、イベントを通してより深いマリンスライフ体験を味わっていただきたいと荒川氏は語った。

もちろん、クルーザーオーナーでなくても、ポーターナムのレンタルや、ドライバーあるいはコンシエールジュが同船してのチャーターサービスも行う予定で、船舶免許を持っていなくてもプライベートクルージングや船上パーティーを

存分に味わうことができるようになっているので安心していただきたい。

6月15日に天王洲アイルで実施

されたイベント「K TOUCH CH MARINE CLUB プレミアムクルーズ」でもポーターナム35が使用され、主催者として登



タイム誌『K TOUCH』。毎月、ハイクオリティなビジュアルが魅力のファッションストーリー、旬な人物や著名な人物へのインタビューなど、様々なコンテンツが誌面を彩っている。荒川氏が「1万人以上の顧客に原則手渡ししています」と語るように、この『K TOUCH』は一種のクラブマガジンだ。

『K TOUCH』にはここでしか手に入らない国内外の特別な情報を取りそろえることによって、荒川氏が「『K TOUCH』が欲しいから顧客になるという形にしたい」と語るように、単に顧客に渡す雑誌としてではなく、本物のクラブマガジンにしたいという強い熱意が伺える。「車の後部座席に常に入れておいてもらいたい」という願いも、この『K TOUCH』がひとつのステータスとなることを願っているからだろう。

壇した荒川氏の「海の楽しさを味わってもらいたい」との想いの通り、企画されたトークショーや東京湾クルージングは多くの招待客

から好評を得た。

その荒川氏がプロジェクトマネージャーを勤めるのが、創刊から1周年を迎えたクオリティライフス

FUN TO CRUISE

クルーザーオーナーに聞く 「私とクルーザーの距離感」

File.1

さくらだ まさひこ
櫻田 雅彦氏



Profile
医療法人社団櫻雅会
理事長／歯学博士
オリオン歯科 院長

千葉と東京に4つの歯科クリニックを経営している櫻田氏。日々多忙を極める中、どのようにクルーザーと出会い、わずかな余暇でどのようにクルーザーと関わっているのか。その距離感を知ることによってクルーザーの魅力を探る。

自然とリラックスできた

もともとマリンスポーツが好きで、サーフィンやジェットスキーを楽しんでいたという。自然とクルーザーを目にする機会が増えるにつれ、徐々に船に対する憧れが強くなっていった。もともと乗り物全般に興味があった櫻田氏にとって、船に関心を持つようになったのは自然な流れかもしれない。

ある時、友人のクルーザーに乗せてもらい、アンカーを下ろして洋上でのひとときを過ごした櫻田氏は、「自然とリラックスできた」と語るようにクルーザーの心地よさを体感した。このことがきっかけで、『オーシャンライフ』などの専門誌を買うようになった。そこに掲載されていたポートや海の写真を見て、その美しさに感動した櫻田氏は、ポートと海の写真をクリニックの待合室にも飾ったという。

初めは海外製のクルーザーを考えていた

最初のクルーザーも現在のクルーザーもポーナムという櫻田氏だが、実は初めは海外製のクルーザーを考えて

カジキ釣りを楽しむ櫻田氏。少しでも大きなカジキを釣るために、まなごしは常に真剣そのものだ。トヨタの営業マンとの出会いをきっかけにPONAM オーナーとなった櫻田氏だが、仕事も遊びもスケールが大きいと感じる！（編集長）





いたという。海外製のクルーザーは日本製に比べてデザインが優れていると映ったようだ。リビエラ逗子マリナーで試乗したのも、海外製のシーレー30だった。

ところが「こんなに揺れるのか」というのが、櫻田氏の感想だった。シーレーを含め、海外製のクルーザーの中には湖畔向けに作られたものも多く、そのため揺れに弱い面もある。このときの感覚が強く残っていたためだろう、次にポーナム28を試乗したときには、「乗り心地が全然違った」と正反対の感想を抱いている。

ポーナム28とシーレー30では船体の大きさにほとんど違いがないにもかかわらず、「こんなにも乗り心地が違うのか」と櫻田氏が驚いてしまうほど、ポーナム28の性能は高いということだ。

もうひとつ、櫻田氏の気持ちをポーナム28に傾けたものがある。ポーナムの営業担当者との出会いだ。「いい営業との出会い」と語るように彼との関係はとても良好だったことが伺える。

『ポーナムはいいですよ』と聞いているうちに、「興味がわいてきた」という。「ポーナムで釣りをしましょう」というのが彼の営業文句だったらいい。櫻



田氏はその営業文句に対して「ポーナムを買うならカジキを釣る」と言ったそう。

木目が美しい櫻田氏の愛艇 PONAM-35SW のキャビン。船内というよりは、高級マンションのリビングを感じさせる。カジキ釣りの束の間の休息にもうってつけのインテリアだ。

ポーナムIIカジキ釣り

カジキを釣るというのが、ポーナムを選ぶ大きな要素になっている。「ポーナム28はデザインも気に入っていて、釣りもできるし、クルージングもできる」と語るように、性能もさることながら、櫻田氏のニーズにマッチしたというのが大きい。

ではなぜカジキなのか。櫻田氏は小さい頃よく川釣りをしていたそうだし、川釣りではどうしても釣れる魚のサイズに限界がある。「でも海ならもっと大きな魚が釣れるし、釣ってみたいと思った」というように、櫻田氏にとっての釣りは、カジキのような大きな魚を釣り上げるといった楽しさだった。

それに、もともとクルーザーとカジキには深い繋がりがある。櫻田氏が購読していた雑誌にも、メキシコのロスカボスやアメリカのカリフォルニアでのカジキ釣りトーナメントのレポートが掲載されていた。そのような情報に触れていたことが、ポーナムIIカジキ釣りに繋がったのかもしれない。

最も身近にある「非日常」

「海外リゾートなんかに行っても、やっぱり患者さんやクリニックのことが気になる」と語る櫻田氏がオリオン歯科を開業したのは20代の頃。多忙な

日々を過ごしている櫻田氏にとって、クルーザーでのマリナーライフは唯一のライベートになれる時間だといってもいいかもしれない。「今はどこでも電話がつながるけど、海外だともし何かあったときにすぐに駆けつけられない」と、常に患者やクリニックのことを気にかけている櫻田氏にとっては、海外滞在時はプライベートな時間になりきれないのだろう。

「患者さんやクリニックのことを忘れるわけではないけれど、クルーザーで陸から離れると自分だけのプライベートな時間になる。逆にこういう時間を持つことで患者さんともよりよく接することができる」という言葉からも、櫻田氏にとってクルーザーでのマリナーライフが欠かせないものになっていることが想像できる。

「クルーザーに乗って海へ出ると、目に見えて海の色が変わっていくのがわかるし、空気がきれいになっていくのを感じる」。櫻田氏にとって、自然を感じるができるクルーザーは最も身近にある「非日常」、言い換えれば日常のマストになっている。



写真上／釣り上げた自慢のカジキとともに、スタッフと記念撮影に臨む櫻田氏。

写真左／長い格闘の末に釣り上げたカジキを前に、みんな達成感に満ちた表情だ。



※写真は撮影用小物、オプションパーツ等を含む特別仕様艇です。



さらに深化した美しさ。さらに進化した快適性。

PONAM-35swは、従来のドライブアシストにバーチャルアンカーシステムを追加し、トヨタマリン独自の操船支援システムをさらに充実させています。

インテリアには木目調デザインを採用するなど、すべてにこだわり抜きました。

あなたを待っているのは、さらなる上質な「海の遊び」です。

THE PREMIUM OF PREMIUMS

35
SW

Premium Cruiser

PONAM-35sw

Debut!

試乗会の開催日などのご案内は、ホームページまたは、フリーダイヤルまでお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社 マリン事業部 トヨタマリン営業所 〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町2丁目1番地



0120-532-451 www.toyota.co.jp/marine/

クルーザーオーナーに聞く
「私とクルーザーの距離感」

File.2

さかきばら たつゆき
榎原 龍之氏



Profile
株式会社榎原
代表取締役

現在保有しているクルーザーは5艇目という榎原氏。これまでのクルーザーとの出会いから今までの歴史やクルーザーへの想いを取材することで、榎原氏が考えるクルーザーの魅力、榎原氏とクルーザーの「距離感」を探る。

サンシーカーの
オープンクルーザー

もともと車が趣味でレースをやっていた榎原氏。そのレースの仲間がクルーザーを保有していたことがきっかけで、徐々に船の楽しさを知ることになったという。レースを始める前の20代の頃に読んでいたというボート専門誌「ボートナウ」は、スタイリッシュでデザイン性が高く、他の雑誌とは一線を画していた。日本には入ってきていない海外の船を多数掲載していて、そこに掲載されていたのがサンシーカーのオープンクルーザーだった。最初のクルーザーこそ同じオープンクルーザーのシーレーだった。「昔からオープンが好きで、当時安かったのもあるけれど、雑誌で見たときに自分のイメージにぴったり合った」と言うように、2艇目はそのサンシーカーを購入。

もちろん当時も日本製のクルーザーはあったが、欧米製のようなデザイン性を意識した作りにはなっておらず、イメージにはなかったというように、保有したクルーザーは全て海外製だ。

なかなか気に入った船が見つからず、次の船のつなぎとして購入したのも、ウエルクラフト社製の37コルシカだった。

憧れのリーバ

「ずっと憧れていた」と語る榎原氏が購入したのが念願のクルーザー、リーバ50スーパーアメリカである。リーバは、「他社にはない美しいフォルムデザイン」「高いクオリティとサービス」「頑丈なボディー」などと評される、まさに世界最高峰のひとつと言っているクルーザーだ。車を通して昔から付



榎原氏の愛艇から横浜ベイブリッジを臨む。眼前に大きな橋が迫ってくるとテンションも最高潮に達するようだ。

き合いがある先輩も「使い勝手もいいし、壊れにくい、本当にいい船だ」と評価したらしい。リーバにはリーバのオーナーだけの特殊なコミュニティがあることから、特別なクルーザーだということが伺える。類は友を呼ぶとでもいうのだろうか、榎原氏もそのコミュニティに誘われたという。

それからリーバ58のフラマーにクラブアップするのだが、実は購入を決めたのは榎原氏ではない。当時の先輩に130フィートのメガヨットを保有している方がいて、「もう予約しておいたから」といきなり言われたというから驚きだ。

根底にある「人とのつながり」

「ベースは人間関係」。こう語るように、榎原氏にとってクルーザーは人との関わりを生み出す場である。

「船はひとつの空間なので、初めての人とでもすぐに打ち解けられる。完全なプライベートの中で一緒においしいものを食べたり、きれいな景色を眺めたりすれば仲良くなれる」と榎原氏は言う。「人間関係や環境、生き方にあるわけて自身がステップアップしていく

と、船も変わってくる」という言葉を体現するように、榎原氏も保有するクルーザーが変化していった。リーバ58フラマーのエピソードはまさに人間関係によってクルーザーが変わったいい例だ。

クルーザーを保有することで変わるのは何もオーナーだけではない。「今のクルーザーは社員みんなにも乗ってもらって。そうしたらみんなから『これ接待に使いませんか?』と言われるんです」と嬉しそうに話す。クルーザーを保有することで社員にもいい刺激となり、新しい発想が生まれたというのは経営者としてもクルーザーオーナーとしても喜ばしいことだろう。

都市型マリナーの時代

クルーザーを心から愛しているからこそ、マリナーに対して独自のアイディアを語ってくれた。

「夢の島のような都市型マリナーがもっとあってもいいと思うんです。もっと身近にあって、簡単にマリナーまで出ていけたほうがいい」。

また、海外から日本に来るといふ発想がこれからはとても重要だと榎原氏



休日にクルージングを楽しむ榎原氏。自慢の愛艇を操舵する表情は実にリラックスしている。オープンクルーザーに降り注ぐ日差しさえもクルージングの楽しみのひとつであるかのように、海上を快適に進んでいく。

は訴える。横浜にあるベイサイドマリナーは関東最大級のマリナーで、海外からの利用者も多い。「こういうマリナーこそ東京に必要。日本は地中海を目指すのではなく、都市型マリナーという考え方が大切」。

このように考えるのは利便性だけが理由ではない。日本には日本ならではの魅力があるからだ。構造建築物の多い東京港のナイトクルーズは、東京ゲートブリッジを通ってお台場まで行くこと、まるで宝石のような夜景を見ることが出来る。そして、帰りに羽田沖を通るときには、羽田空港を離発着するときのライトが作り出す美しい光の芸術を楽しめるのだという。

木を植えるような 取り組みが必要

横浜で毎年開催されているボートショーも海外とは全く違うという。「海外みたいに横浜のボートショーも、ビックサイトで夜の9時、10時までや

るようなイベントにしたほうがいいのではないかと語るのには、日本の船の裾野が広がらないことに対する危機感があるからだ。日本は周囲を海に囲まれた海洋国家であるにもかかわらず、先進国の中でもっとも船の保有数が少ない。そのような現状を打開し、船の裾野を広げていくためには子供連れで訪れたり、カップルのデートスポットになったりするようなボートショーにしなければいけないのではないかと榎原氏は語る。しかし、裾野を広げたりインフラを整えたりするのは一朝一夕にできることではない。20年、30年かけて木を植えるような取り組みが必要だとも語っていた。

同時に「トヨタの『免許を取ろう』のCMじゃないけれど、環境を大きく変えるには旗振り役が必要」という榎原氏の言葉には、トヨタへの期待が含まれているのかもしれない。心から船を愛し、楽しんでいる榎原氏だからこそ、日本の船の未来に対して不安を感じながらも強い期待を持っているに違いない。

トヨタマリンスタッフに聞く！

「今、トヨタマリンを選ぶ理由」

一口にモノづくりといっても、開発には開発の、生産には生産の、販売には販売の理屈があるが「チーム」の重要性は論を待たない。特につくるモノがクルーザーならなおさらだ。本誌では今回トヨタマリンのキーマン3名を直撃取材し「今、トヨタマリンを選ぶ理由」について大いに語ってもらった。「チーム力」がわかりただけだと思う。



上田 孝彦 (うえだ たかひこ)
マリン事業部 開発・販売室 開発グループ長

企画、計画、設計だけではなく、生産に対する協力まで、クルーザーが出来上がるまでのすべてに関わるトヨタマリンの開発グループ長の上田氏。PONAMに対する確かな自負と新たな挑戦を語ってくれた。

「変わらないこだわり」
「トヨタらしさ」

イタリアや台湾のメーカーとの意見交換や、LFA開発ドライバーの飯田章氏を外部アドバイザーに招くなど、「外」の意見も積極的に取り入れているトヨタマリン。

「こだわっているのは、『トヨタらしさ』」

を出すこと」と上田氏が語るように、その中でも変わらないものがある。

そのひとつが他社と比べても世界一だと自負するトヨタのエンジンだ。コモンレールシステムと呼ばれるポーナムのエンジンは、高出力でありながら、燃費が良く音も静かで始動時や加速時に黒煙や白煙がほとんど発生しない。

もうひとつは後藤氏が「お客様の期



後藤 祥夫 (ごとう さちお)
マリン事業部 生産・統括室 生産・調達グループ長

材料の調達からPONAMの生産までを担う生産・調達グループ長の後藤氏。トヨタのものづくりのポリシーを大切にしている後藤氏の生産にかける思いには並々ならぬ迫力がある。

待を少しでも超えられるような品質を目指しています」と語るスタッフの品質に対する追及心。手間暇をかけてでもよりよいクルーザーを生産するために、日々仕事にあたっているという。

アルミハルが生み出す
快適な乗り心地

ポーナムと同レンジのクルーザー

がFRP（繊維強化プラスチック）を採用するなか、ポーナムは当初からアルミを採用している。新幹線や航空機などにも利用されているアルミ材を、ウオータージェットカットという技術で0.1ミリの精度で加工することにより、ポーナムならではの乗り心地を実現している。「それに、アルミはFRPに比べてリサイクル性が高いことも魅力的



です」という言葉からは、環境への配慮が伺える。

顧客と一緒に造るポーナム

後藤氏は、「実際に製造現場に足を運んでもらって、クルーザーを造っているところを見てもらいたい」と語って

くれた。

その言葉には、顧客と一緒にクルーザーを造っていくイメージが垣間見える。最終的には現在のようなおプションを選ぶというだけではなく、完全オーダーメイドによるその人だけのクルーザーの生産をしたいと夢を口にす

「開発とお客様と一緒に話をしながらイメージを固めていって、お客様だけのクルーザーを造れたらいいですね」という後藤氏の言葉からは、顧客に寄り添ったクルーザー造りへの想いが感じられる。

ポーナムの性能を支えるトヨタの技術力



PONAM に採用しているアルミハルは、数あるアルミの中でも特に高い強度を誇るものだ。FRP に比べて衝撃が分散されやすく、振動を素早く減らすことで快適な乗り心地を生み出している。

アルミハルの加工に用いているウォータージェットカットは0.1mm という精度で加工することが可能。これまでよりアルミを溶接する際のひずみを抑えることが可能となったことで、PONAM ならではの乗り心地を実現している。



田中 齊

(たなか ひとし)

マリン事業部 開発・販売室
トヨタマリン営業所 所長

東日本、中部、西日本の3つのエリアの販売を統括する田中氏。愛知県のラグーナ蒲郡にある「TOYOTA MARINE ラグーナ」の所長でもある。直に顧客と接している田中氏の言葉はマリンライフの臨場感たっぷりだ。

海の楽しさを伝えるのが販売の仕事

「販売の仕事は海の楽しさを多くの人に知ってもらうこと」。田中氏がこう語るのは、長年顧客と一緒に数多くのクルージングをしてきて、海の楽しさを肌で知っているからだだろう。そのためには、まずクルーザーに乗ってもらうことが重要だという。

田中氏がこだわっているのは、できる限り顧客と一緒にクルージングをすること。三河湾には多くの島があり、よく島までクルージングをして食事を

するという。時には顧客と丸一日同乗して、顧客それぞれに最適な楽しみ方を提案することもあった。

感動してもらうことが何よりうれしい

「クルーザーが大きくなれば、今まで湾内だけだったのが、外海へも行けるようになる。そうすると湾内では体験できなかった感動を味わうことができんです」。実はオーナーがクルーザーを大きくしていく理由のひとつがここにある。はじめはボータムの乗り心地などに感動をしていた方も、外海までクルージングができるようになるというルカやスナメリを間近で見ることでもできるようになる。「これからはもっとクルーザーに乗ってみたい」などと感動を耳にするのが、何よりもうれしいという。

楽しさも危険もしっかりと伝える

田中氏が大切にしているのは楽しさだけではなく、海の危険もしっかりと伝えることだという。

「一見穏やかに見えても、これまでの経験から海が荒れるのが分かるときは、勇気を持って中止することも必要なんです」というのは、まさに顧客のことを常に第一に考えているからこそ言葉だ。

初めてのの方の場合はマリナーが出港

停止していなくても、クルージングを短縮したり中止したりするそうだ。

乗るからこそ生まれてくる新しい楽しみ方やニーズ

「ロングクルージングを提案しようと思っている」。もちろんこれは田中氏の思いつきではない。海外でクルージングをした人の多くが同じことを言っていたのだという。

このような新しい発想は何も楽しみ方だけではない。田中氏自身も「フェンダー（船体の側面を保護する道具）がエアバッグのように自動で出てくるようにならないか」というアイデアを開発部門に相談している。顧客とクルージングをしていて感じたというように、積極的に同乗するトヨタマリンだからこそ、このような新しいアイデアが出てくるのだろう。

実は開発の担当者にも同乗してもらうように働きかけているという田中氏。先の例のように実際に乗るからこそ得られる開発のヒントの重要性を強く認識しているからだ。

最後に田中氏は「過去に味わったことのない感動を味わってもらいたい」と改めて語った。クルーザーは海の楽しさを味わうために欠かせない道具であると言いつつ、切るところからも、常にこの想いを多くの人に伝えたいという信念が感じられる。



ラグーナ蒲郡にある TOYOTA MARINE ラグーナの前に展示された PONAM-28L と田中氏。顧客との同乗経験が豊富な田中氏は、PONAM をバックにまるで自分の家の中に招き入れてくれるような優しさを見せてくれた。

一味も二味も違う
ラグーナ蒲郡

クルーザーに乗って、仲間や家族と共にマリンスライフを楽しむ時間は特別なもの。そんな特別な時間をより充実させてくれるのがマリナーだ。日本各地にある様々なマリナーの中で、ここラグーナ蒲郡は他のマリナーとは一味も二味も違う。

経験豊富なスタッフと充実した設備が整ったマリナー、海のテーマパーク「ラグナシア」、全邸オーシャンビュウの分譲マンション「ラ・メルカーサ」、ショッピングモール「フェスティバルマーケット」、地中海レストラン「バルカーザ」、さらには「ラグーナの湯」という天然温泉まである複合型のリゾートマリナー、それがラグーナ蒲郡なのだ。

最高のスタッフと充実した設備
が出迎えるラグナマリナー

離着岸が容易なゆとりある航路幅と棧橋が特徴的なラグナマリナー。海上はシングル・ダブルバースの2種類を完備している。シングルバースは1バースに1艇のみで、ゆとりがある係留スペースは



Marina Divide vol.1

マリナー探訪

徹底活用
ラグーナ蒲郡

使い勝手が抜群。ダブルバースは1バースに2艇。船体の大きさ、給水・給電ポストの有無など愛艇に合せて自由を選ぶことができ

る。オーナーズカードを所有していれば、棧橋を24時間利用が可能で、夜間は警備員が巡回するため

安心して停泊しておくことができ

る。トヨタマリン、ヤマハマリンセンターのメーカー系ショップが併設されているため、この2社のクルーザーオーナーにとっては大きな魅力となるはずだ。新艇展示や

試乗体験はもちろん、様々なマリ

ン情報を得ることができるほか、トヨタマリンコンシェルジュにクルージングプランを相談すれば、今までとは違ったクルージングを存分に味わうことができるはずだ。

最大の魅力は
複合型リゾートマリナー

ラグーナ蒲郡最大の魅力は、様々な施設が整った複合型のリゾートマリナーということだ。海のテーマパーク「ラグナシア」



は子供から大人まで楽しめるアトラクションやエンタテインメントが充実している。小さなお子様がいるオーナーには、ありがたい施設だろう。

ショッピングモール「フェスティバルマーケット」には様々なショップやレストランが入っていて、分譲マンション「ラ・メルカーサ」の住人はもちろん、クルーザーオーナーにとってもうれしいサービスが整っている。中でも人気の高い寿司店「魚魚丸」では、市場から直送した新鮮な海の幸を、保留しているクルーザーまで届けてくれる。クルーザー仲間や家族と愛艇の中で食べる極上の寿司は、より一層海と一体になった気分させてくれるはずだ。

ラグーナ蒲郡でしか 味わえないクルーザーライフ

三河湾は平均水深が9.2メートルと比較的浅く、波も穏やかでゆったりとクルージングを楽しむには最適なスポットだ。海域には水質がきれいな場所で見ることができない小型の鯨の仲間であるスナメリが生息している。ダイビングをしながらスナメリを探すというのは、ここでしかできない体験だ。



三河湾の沖合3キロに浮かぶ無人島・三河大島へは、ラグーナ蒲郡からクルーザーで行くことができる。島全体を覆う暖帯樹林は、日本とは思えないトロピカルムードが満点。海岸は、断崖や洞穴など変化に富み、クルージングにも最適だ。島の北東には天然記念物であるナメクジウオも生息している。夏の間(7月1日〜8月31日)は海水浴場が開設され、三河大島までクルージングして、蒲郡や渥美半島を眺めながら海水浴を楽しむというのもラグーナ蒲郡ならではの楽しみ方だ。

クルーザーオーナーだけの 限定サービス

プライベートガーデンとマリンスalonは、オーナーだけが利用できる。プライベートガーデンでは仲間や家族とともにバーベキューを楽しむことができる。もちろん道具は全てラグーナ蒲郡が用意している。

マリナーを一望できる開放的なマリンスalonでは、クルージングを楽しんだ後のパーティーに最適。海からの心地よい風をうけられるマリントラスで、愛艇を眺めながらおいしい料理やお酒を楽しめば、自然と会話も弾むはず。クルーザー仲間や家族とのプライベートパーティーだけでなく、大切なビジネスパートナーをもてなすときにも最適なサロンだ。



ヒルナンデスで1位に輝いた 花火スペクタキュラ 「ミステイノーチェ」

幻想的なダンスショー、迫力のある花火と炎、プロジェクターで映像が映し出された巨大なバルーン……。昼間はプールを満喫する人々にぎわっていた空間が音楽とともにファンタジーの世界へと変貌を遂げる。

2013年7月15日にラグナシアで行われた花火スペクタキュラ「ミステイノーチェ」は、情報番組ヒルナンデスで昨年のおすすめ花火の第1位に輝いたショーだ。

実際に目の当たりにすると、幻想的で壮大な世界に圧倒されてしまう。プールサイドに集まった観客の右手から、二人のダンサーが静かに登場する。彼らのダンスから始まったショーは物語が進むに

つれて、激しい音楽とともにその様相が激変する。連続で打ち上げられる花火、夜空に放たれるレーザー光線、力強い炎。その大迫力の光景に観客の誰もがカメラを向けていた。

さらに物語が進むと、噴水の奥からネオンライトが取り付けられた衣装をまとった新たなダンサーが登場する。まるで小さなパレードのような美しさに目を奪われる。

圧巻だったのはラストに現れた巨大な卵型のバルーンだ。徐々に大きくなっていくバルーンには、プロジェクターでファンタジックな映像が投影され、クライマックスを演出する。

わずか20分のショーだが、多様な演出に緩急のある物語と、時間を忘れてしまうほどの非常に充実したショーだった。

昼とは違った顔を見せる ラグーナ蒲郡の イルミネーション

昼は多くの観光客やイベントでにぎわいを見せるラグーナ蒲郡のフェスティバルマーケット前の広場。徐々に日が傾いていくにつれ、にぎやかだった空間が違う色を見せ始める。雲の間から色鮮やかに覗く陽光がマリーナに特別な時間をもたらしてくれる。

ラグーナヒルから眺めると、その光と闇の変化を存分に楽しむことができる。闇が濃くなるにつれて徐々に建物に光が灯りはじめ、フェスティバルマーケットは店内の照明が煌々と灯り、ひとつの光のオブジェを作り上げ、日中は家族連れの楽しい声にあふれていたラグーナ蒲郡を象徴する観覧車は、イルミネーションの化粧を施し、一転恋人たちに素敵なムードを提供し始める。

ナイトクルージングでこの幻想的な空間を味わうのもラグーナ蒲郡の楽しみのひとつに違いない。





7月からリニューアル運行を開始したクルージング船「ラグーナスナメリ号」

船体にかわいらしいスナメリのイラストが描かれたクルージング船「ラグーナスナメリ号」。最大94名までの利用ができる。後方のベンチ席にはマリンをイメージした青と白の幌が頭上を覆っているため、暑い日差しが照りつける夏でも暑さを感じることなく快適なクルージングが楽しめる。時速8ノットのゆったりとしたクルージングでは、船名の由来にもなっているスナメリのウォッチングだけでなく、三河湾の遊覧や船上軽食パーティーなど様々な利用が可能だ。

Gastronomy Cruising

クルーザーで行くレストラン Vol.1

合歓の郷ホテル&リゾート 「ザ・ダイニングルーム」



三重県奥志摩のあご湾を望む「合歓の郷ホテル&リゾート」。平成25年4月に『五感を潤す太陽と森のリゾート』をコンセプトにリニューアルが行われ、「ホテル合歓」の客室やエントランスロビー、ラウンジはもちろんのこと、メイダイニングである「ザ・ダイニングルーム」も、開放的でゾー

ト気分を満喫できる空間に生まれ変わった。
「伊勢志摩キューイジージュ」をコンセプトとした「ザ・ダイニングルーム」は、伊勢海老やアワビなどの新鮮な海の幸、松阪牛などの地元最高級食材はもちろん、なんといっても敷地内にある合歓農園で栽培した合歓野菜をはじめ、地元

伊勢志摩の最高級食材にこだわった 伊勢志摩キューイジージュ





で採れたハーブや野菜をふんだんに使った料理が特徴だ。

本場イタリアで修業したシェフの川埜悟氏が「志摩に来て初めて食材の本当のおいしさを知った」とほれ込む旬の食材は、徹底的にこだわりぬいたものだけを厳選し、食材の持つ本来の味を楽しむためにシンプルな味付けになっている。地元の野菜や果物を使ったソースを好みに合わせて選べる「コンディメント・バー」スタイルもうれしいサービスだ。

女性にとってもうれしいのが、「伊勢志摩リゾートセラピー」の一環として提供されている「美腸メニュー」。腸をきれいにする効果が高いと評判の食材を用いた料理は、美と健康を求める女性に人気となっている。

もちろん『五感を潤す』というコンセプト通り、味だけでなく盛り付けの美しさや鼻腔をくすぐる香りも楽しめる。特に、シェフの独創的な発想から生み出された数々の料理は、まさにここでしか味わうことができない至高の食体験となるはずだ。

合歓の郷ホテル & リゾート

住所：〒517-0403
三重県志摩市浜島町迫子2692-3
TEL：0599-52-1111
FAX：0599-59-0001
WEB：http://www.nemunosato.com

【クルーザーの停泊にあたって】
マリーナを利用する際は、事前連絡が必要。停泊スペースに限りがあるため、宿泊客が優先となります。また、繁忙期等で満艇になる場合もあります。



女性の視点が広げる可能性 女性×クルーザー＝∞

クルーザーと言えば男性？ いいえ、そんなことはありません。女性が楽しめるイベントや、楽しみ方もたくさんあります。まずは身近なところから、クルーザーに触れてみてはいかがでしょうか。

男子禁制!? クルーザー女子会パーティー

2012年11月、豪華クルーザーで開催されたナイトクルージングパーティー。それはなんと男子禁制！

それもそのはず。ナチュラルローンとオズモールがコラボレーションしたそのパーティーのテーマはコラーゲン。まさに女性ならではの。コラーゲンに関する様々な商品が船内に展示され、美容に関心のある女性にはたまりません。

クルージングは、お会場を出発して羽田沖まで行き、ライトアップされたレインボーブリッジを眺めるというコース。さらにナチュラルローンがプロデュースするディナーまで振る舞われたという、まさに至れり尽くせり。

心も体もリフレッシュすれば、仕事もプライベートも恋愛も充実すること間違いなし。初めての方は、まずは女性だけのパーティーに参加してみたらいかがでしょうか。

豪華なクルーザーで 素敵な出会いを

クルーザーのパーティーにも様々なものがあります。



もちろん近海をクルージングすれば、二人だけの充実した時間を過ごすことも可能。今は調理スペースが広いクルーザーもあるので、そんなクルージングの最中に、海上で自慢の料理を振る舞えば、グッとお互いの距離を縮めることができるかも。

クルーズウェディング

女性にとって特別な一日と言えば結婚式。もちろん、豪華な式場やチャペルでの挙式もいけれど、どうせならいつもと違う最高の一日にしたいもの。

そんなときは完全オーダーメイドの貸し切りクルーズウェディングがおすす。一番の魅力は何と言っても完全オーダーメイドならではの、他にはないウェディングプラン。招待状や当日のタイムスケジュール、料理など、細かなところまでこだわられるのは女性にとっては嬉しいもの。そして、招待した大切な家族や友人も、自分たちだけの特別なウェディングだからこそ、より強い思い出として記憶に残ります。招待した友人・知人も、きっと他では体験できない「非日常」に満足してくれるはず。中にはキッズルームを設けているところもあり、お子様がいる方

Wknows

持ってるオンナは知っている

そのひとつが「クルーザー合コン」。その名の通り、豪華クルーザーをチャーターし、船上で行われる特別な出会いの場です。高級ホテルのスイートルームさながらのキャビンは男女が和やかに語り合うにはムード満点。

クルーザーの中は完全なプライベート空間。そこで少人数の男女が一緒に時を過ごせば、自然と会話が弾みます。

クルーザーにはコンシエルジュアテンドも同船しているため、クルーザーが初めてでも安心。シャンパンで華麗に乾杯をした後は、高級フレンチやイタリアンとともに、ワインやカクテルに舌鼓。

女子会とはまた趣の異なるクルージングで、素敵な男性と巡り合えるかもしれません。

クルーザーでマリナーデート

マリナーというと、釣り船やクルーザーを停泊しておくだけの場所と想像している方もいるかもしれませんが。

しかし、マリナーの中にはマリナーレジャーだけでなく、大自然の中をトレッキングしたり、豪華な料理を堪能できたり、快適なホテルでリラックスしたりと、デートに最適な場所もあります。



でも安心。わざわざ結婚式に出席するために両親に子供を預ける必要もなく、披露宴中に泣いてしまわないかといった心配もありません。

結婚を考えている方は、一度検討してみてもいいかもしれません。

海が育む豊かな心

休日には家族と一緒にクルージングをして、様々なマリナー体験をするというのがいいでしょう。

海には海水浴以外にもさまざまな魅力があります。広大な海をクルージングしたり、きれいな海に潜ってみたり、無人島を散策してみたり。日常では経験することができないことがたくさんあります。

このような特別な体験は、子供の情操教育にも最適。間違いなく感情豊かで創造的な心を育む一助となるはずです。海の近くの小学校では課外授業の一環としてヨットやカヤックで海を体験し、近くの半島を散策するというプログラムを取り入れているところもあります。

また、親子の絆を深める機会としてもマリナー体験は最適ですよ。



100人アンケート クルーザーに関する 意識調査速報！

◎調査方法

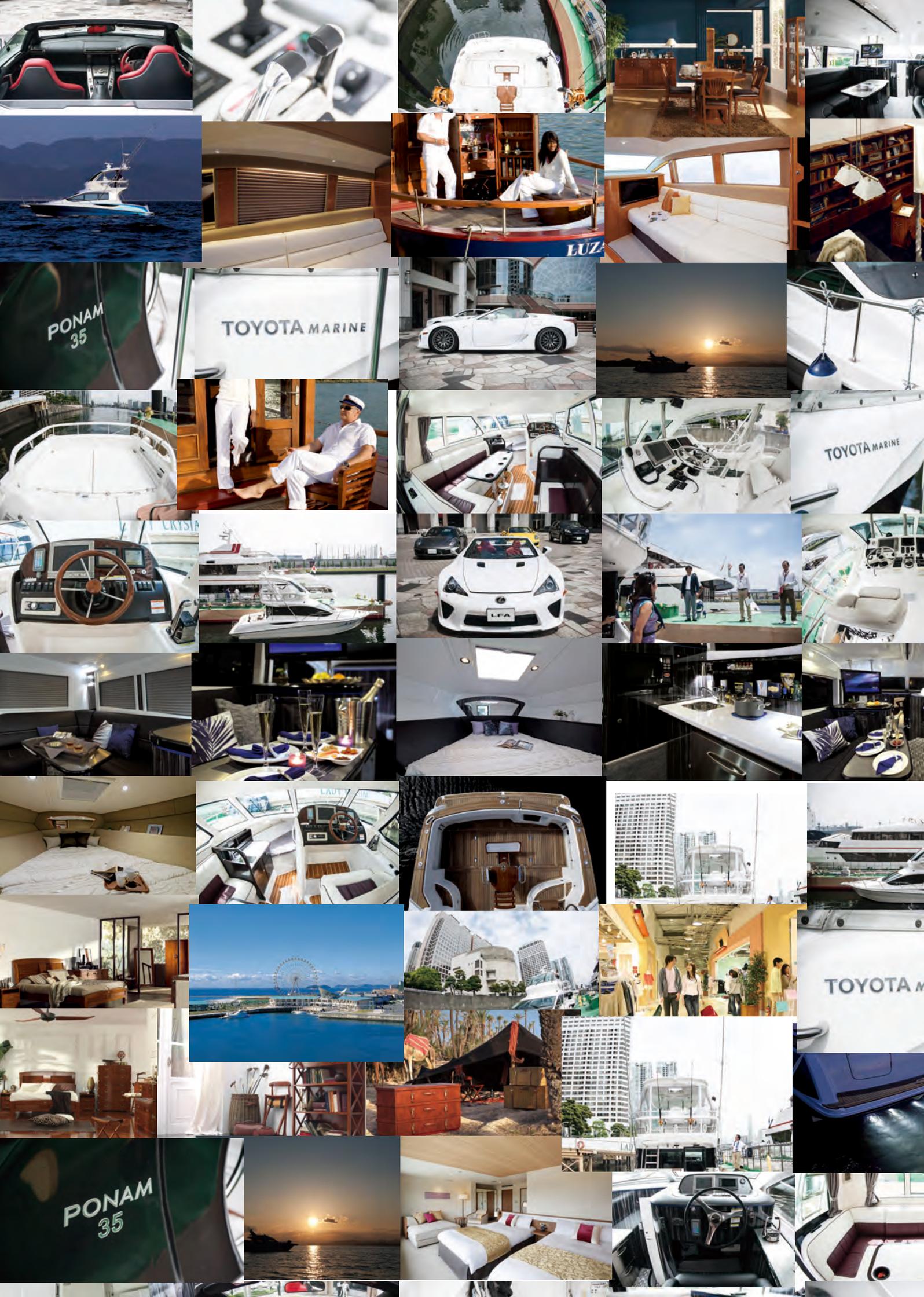
株式会社ルート&パートナーズの資産1億円以上の顧客270名にクルーザーに関するアンケート調査を実施。有効回答数117名中100名をランダムサンプリング。

◎調査期間：2013年6月1日～6月30日

※調査詳細は2013年8月10日以降に、www.cruiser.jpに掲載予定です。

海外と違って、なかなかクルーザーのあるライフスタイルがイメージしにくい日本。どんなクルーザーが欲しい？ 海外メーカーと日本メーカーではどちらが魅力的？ クルーザー購入のボトルネックになっていることって？ など、様々な側面からアンケート調査を実施することで、新しいクルーザーライフの形が見えてきた。





試乗会を選ぶコツ

クルーザーの試乗会に参加したいと思いますか？

試乗会に参加してみたいと思っても、初めてでは勝手がよくわからないのではないのでしょうか。

とはいえ、試乗会なら何でも良いというわけではありません。一口に試乗会といっても当然クルーザーも違えばクルージングの内容も違います。単にクルージングを体験するだけの試乗会もあれば、豪華な料理を味わえたりする試乗会もありますし、日本製か海外製かということでも大きな差があります。

試乗会を選ぶコツは、こんなクルージングがいいとか、クルーザーでこんなことをしてみたいかなどを思い描くことです。そうすれば、自然と自身にあった試乗会を選ぶことができるはずですよ。

最新マリナー「NTP マリナーりんくう」

2013年にオープンしたばかりのマリナーを知っていますか？

「NTP マリナーりんくう」は2013年4月に愛知県にできたばかりの最新マリナーです。

まだ知らないという方も多いようですが、何といってもその立地の良さが最大の魅力。中部国際空港から車で5分、セントレアりんくうICから3分、名鉄空港線りんくう常滑駅から徒歩5分。もちろん設備も充実。60トンと

20トンのツーウェイ方式ホイストを採用した日本でも最大級の揚降施設を備え、最大185艇まで保管が可能。サービスセンターでは、24メートル級のクルーザーを4艇収納可能な修理スペースも完備しています。

中部地方のオーナーはぜひ一度訪れてみてはいかがでしょう。

かゆいところに手が届く？
往復送迎サービス

マリナーにあったらいいなと思う設備やサービスは何ですか？

マリナーは言うまでもなく海に隣接しています。そのため、内陸に住んでいたりすると、意外と移動が不便に感じるようです。

オーナーである本人がそう感じるのであれば、初めてマリナーを訪れる得意先もおそらく同じ思いのはず。そのため、なかなか大切な得意先を招待しにくいと感じている方もいるかもしれません。

しかしながら、見方を変えれば送迎サービスがあることで得意先にいい印象を与えられるのではないのでしょうか。特に、単なる送迎ではなく、移動時さえもひとつの「特別感」を演出できれば、ぐっと好感触を得られること間違いなし！

日本 or 海外あなたはどっち？

海外と日本のクルーザーではどちらに魅力を感じますか？

日本製か海外製か。実際にクルーザーを検討しようと思ったら、一度は悩むポイントかもしれません。一般的には、海外のクルーザーのほうが、デザイン性が高いと言われます。ただ、中には日本製のほうが性能やアフターサービスが優れているという人もいて、一概にどちらが優れているとは言えません。

重要なのは、優先順位をしっかりと把握することです。何よりも見た目が最優先という人もいれば、乗り心地が良くなければいくらデザインが良くても意味がないという人もいます。

まずはいろいろな要望や条件を書き出してみることをオススメします。

クルーザーで一番もてなしたい人

クルーザーを買うとしたら誰とどんなときに利用したいですか？

あなたは、誰とどんなときにクルーザーを利用しますか？ 一見簡単な質問のようですが、言い換えれば「一番もてなしたい人」は誰かということかもしれません。家族、友人、ビジネスパートナーと楽しみたいと思うのも当然です。中には「社員」という人や、「お客様」という答えも。

クルーザーを買っても何をしたらいいかわからないという人は、まずは自分が誰と一緒にクルーザーに乗りたいかを考えてみてはいかがでしょう。そして、その人とどんなふうに過ごしたいかを考えると、やりたいことが見えてくるのではないのでしょうか。それはパーティーかもしれませんし、トロリーングかもしれません。

「和」のクルーザー？

クルーザーにあったら欲しくなる設備は何ですか？

畳張りの床に日本画が描かれた格調高い襖扉。柱や梁には日本の木材を贅沢に使っている……というのはいすぎだとしても、和のテイストを取り入れたクルーザーがあったら、粋だと思いませんか？ まさに日本人にしか造れないクルーザーです。

海上でお茶会を嗜んだり、落語を聞いたりというような、日本文化の新たな楽しみ方も増えるかもしれません。

また、「クールジャパン」として日本の文化が世界で注目を集めている今、海外のビジネスパートナーをもてなすにはこれほどの非日常はないのでは？

ボトルネックもこれで解消？
チャーターマネジメント

クルーザー購入のボトルネックになっていることは何ですか？

「維持費が高い」「メンテナンス・ケアが面倒」「初夏から秋にしか乗れない」などの理由で、クルーザー購入を躊躇してしまっている人もいるのではないのでしょうか。

そんなときに便利なのが、チャーターマネジメントというサービス。欧米ではすでにビジネスとして定着しているこのサービスは、使っていない間のクルーザーをチャーターに出すということの。

チャーターマネジメント会社がオーナーに代わってチャーターの代行をするのももちろん、乗らない間の維持管理やクルーの派遣など総合的にサポートしてくれるというものです。

すでに日本人も利用しているというこのサービス。オーナーの方は一度検討してみては？

クルーザー専門
プライベートコンシェルジュ

プライベートコンシェルジュがいたら相談したいですか？

クルーザーのメンテナンス方法は？ そもそも船舶免許はどうやって取るの？ クルーザーに関する専門的な知識を身に着けるのは難しいもの。かといって知り合いやスクールなど、様々な人からアドバイスを聞くのも大変。

そんなとき、クルーザーに関することなら何でも知っていて、どんな相談にも的確に答えてくれるプライベートコンシェルジュがいたとしたら――。

船舶免許の取得方法から、季節ごとの楽しみ方・活用法、メンテナンスの方法、下取りのコツまでクルーザーライフを十二分に楽しめるはず。

そんなコンシェルジュがいるクラブがあったらワクワクしてしまっ人もいるのでは。

今や欠かせないクルーザー保険

クルーザー保険があったら利用したいと思いますか？

道路と違って、海上では人をひいてしまうなんてことはないし、他のクルーザーとの接触事故も起こりにくいかもしれませんが。

しかしそこは、どこまでも広がる海の上。万が一操作を誤って見えない岩などに座礁なんてしてしまつたら大変です。

多くの人がいざというときのために、クルーザー保険があれば入っておきたいと思うのも頷けます。車の自賠責保険のような保険が普及するにはまだまだ時間がかかるかもしれませんが。しかしながら、愛艇や大切な家族・友人を守るためにも、これからはクルーザー保険が欠かせないものになるのではないのでしょうか。

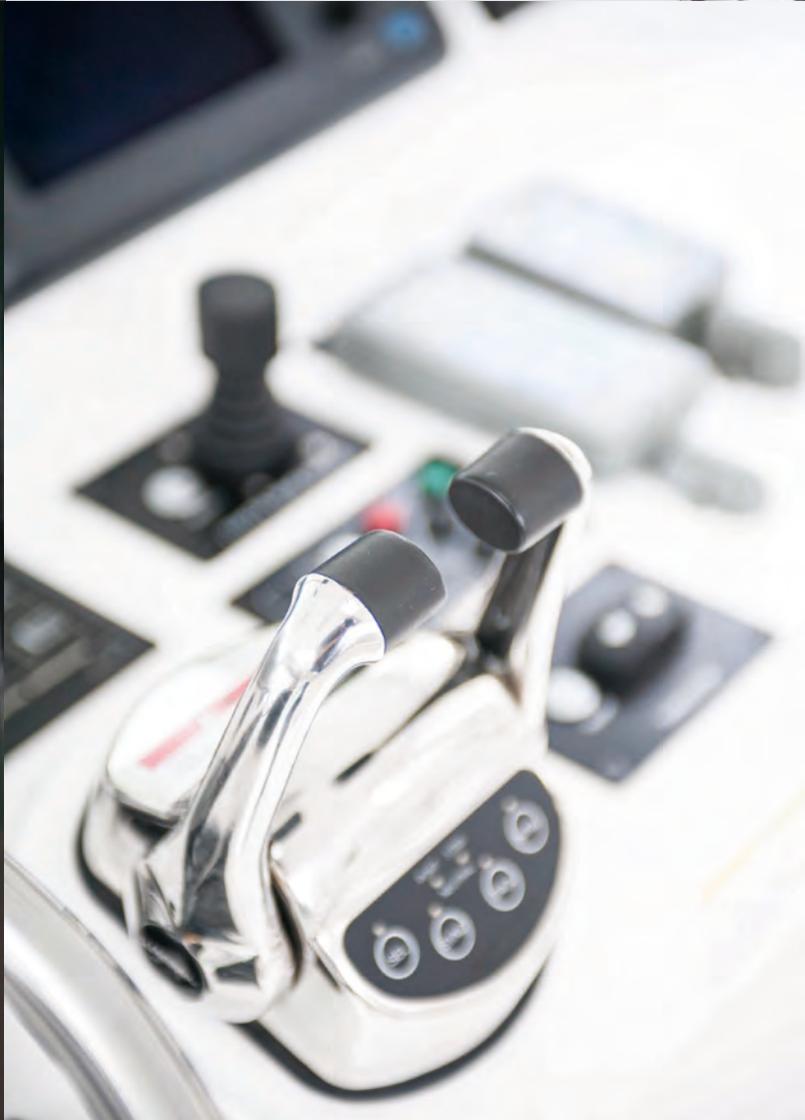
使い方自由自在
プライベートバース付き住宅

クルーザー購入時にプライベートバース付き住宅を検討しますか？

プライベートバースとは、所有しているクルーザーを接岸しておくための個人専用の停泊場所のこと。いわば専用ガレージのようなものです。

一見するとマリーナとさほど変わらないのではと思うかもしれませんが、そんなことはありません。

まず、マリーナと違って他のクルーザーやオーナーに気兼ねする必要がありませんし、なによりも気が向いたときにすぐクルーディングやダイビングを満喫できるというのが最大の利点です。マリーナまで移動する手間もかかりませんし、船好きにとっては窓を開ければ目の前に愛艇が飛び込んでくるというのは理想形のひとつですよね。





2013年10月20日 東京湾プレミアムクルージング 開催決定!!

2013年10月20日、東京品川のクリスタルヨットクラブで「東京湾プレミアムクルージング」を開催いたします。
都心からわずか20分の立地にある水辺のオアシス、クリスタルヨットクラブから、お台場、レインボブリッジなどを回る東京湾クルーズは見どころがたくさん！
中でも羽田空港の離発着する航空機の眺めは別格です。
ぜひこの機会に「東京湾プレミアムクルージング」に参加して、特別なクルージングを体験してみませんか。

参加者大募集！
参加のご希望・お問い合わせはこちら
TEL：0120-532-451
E-mail：info@cruiser.jp

【実施概要】

名称：東京湾プレミアムクルージング
主催：トヨタ自動車株式会社 マリン事業部
協力：株式会社ルート・アンド・パートナーズ
開催日時：2013年10月20日（日） 10：00～16：00
募集人数：1回あたり最大5組10名
※当日3回に時間を区切って試乗会を行います。
特典：各回1名様にゲランサロンフェイシャルエステお試し券（60分相当）を抽選でプレゼント！
会場：クリスタルヨットクラブ
〒140-0002 東京都品川区東品川2-3-16
シーフォートスクエア1階
TEL：03-3450-4300

備考：応募者には詳細を個別にご連絡いたします。

販売代理店一覧

No.	販売店名	郵便番号	所在地	TEL	備考
【関東エリア】					
1	有限会社北欧産業	047-0007	北海道小樽市港町 4-5	0134-32-3911	
2	株式会社トレイズ	064-0805	北海道札幌市中央区南五条西 27 丁目 3-1	011-562-1995	マリンギャラリークルーズ TEL : 011-562-3225
3	株式会社一映マリン企画	041-0821	北海道函館市港町 1-35-7	0138-45-3122	一映マリーナ
4	株式会社くろしお	985-0003	宮城県塩釜市北浜 4-71-10	022-365-3220	北浜マリンベース、宮城ポートマリーナ
5	株式会社中田浜マリーナ	965-0203	福島県会津若松市湊町静湯金戸ヶ入 381-18	0242-93-2050	クラブハウス
6	有限会社マリンサービスいわき	970-0316	福島県いわき市小名浜下神白字綱取 172 番地	0246-53-6996	
7	エム・ジーマリン株式会社	272-0025	千葉県市川市大和田 2-19-6	047-370-1501	
8	SEA 企画株式会社	123-0836	東京都足立区入谷 7-18-18	03-3857-5971	
9	株式会社ファーストポート	132-0022	東京都江戸川区大杉 3-18-15	03-3653-5424	
10	株式会社アリカ	150-0021	東京都渋谷区恵比寿西 1-21-6 アリカビル 7F	03-3496-4511	
11	本橋発動機株式会社	104-0054	東京都中央区勝どき 3-15-3	03-3531-7831	勝どきマリーナ
12	ニックスマリンコーポレーション (株)	182-0002	東京都調布市仙川 2-7-11	03-3305-9030	
13	(株) ケーエムシーコーポレーション	220-0004	神奈川県横浜市西区北幸 2-15-1 東武横浜第 2 ビル 7 階	045-290-8377	
14	神奈川トヨタ商事株式会社	221-0062	神奈川県横浜市神奈川区浦島丘 3 番地 30	045-423-2611	
15	有限会社ダルマ	221-0044	神奈川県横浜市神奈川区東神奈川 2-49-11	045-461-1062	
16	株式会社平野ポート	235-0032	神奈川県横浜市磯子区新杉田町 2	045-771-2223	ヨコハママリーナ
17	株式会社シーサイド	236-0007	神奈川県横浜市金沢区白帆 4-3 シーサイドピアビル 3F	045-773-0777	
18	株式会社リビエラリゾート	249-0008	神奈川県逗子市小坪 5-23-9	0467-23-2111	逗子マリーナ
19	株式会社ユニマツヴェラシス	239-0824	神奈川県横須賀市西浦賀 4-11-5	046-844-2111	
20	株式会社スナガ	370-0704	群馬県邑楽郡明和町斗合田 113-1	0276-74-4110	
【中部エリア】					
21	日本海マリン株式会社	933-0222	富山県射水市海竜新町 2	0766-86-8558	
22	株式会社アール・ティール・シー	920-0211	石川県金沢市湊 3 丁目 19-3	076-239-0090	
23	株式会社大木電業社	913-0045	福井県坂井市三国町南本町 3 丁目 4 番 17 号	0776-82-0079	
24	熱海マリーナ株式会社	413-0102	静岡県熱海市下多賀 541-18	0557-68-2316	
25	沼津埠頭株式会社	410-0867	静岡県沼津市本字千本 1905 番地の 34	055-951-7115	沼津みなとマリーナ
26	株式会社サード	473-0914	愛知県豊田市若林東町上外根 50	0565-53-1166	
27	富士総合商事株式会社	431-1202	静岡県浜松市西区呉松町 1229 番地	053-487-0884	富士マリーナ
28	株式会社ジェイエスピー	444-0124	愛知県額田郡幸田町深溝大角豆田 1-6	0564-56-0022	ネオスポーツ
29	出光マリンズ株式会社	441-0314	愛知県豊川市御津町御幸浜 1-1-21	0533-76-3100	三河御津マリーナ
30	アイサン海洋開発株式会社	444-0324	愛知県西尾市寺津町 2 丁目 26 番地	0563-59-6435	アイサンマリンセンター
31	愛知海運産業株式会社	441-3400	愛知県田原市柳町 6	05312-2-2141	
32	名古屋トヨペット株式会社	479-0882	愛知県常滑市りんくう町 3 丁目 6 番地の 1	0569-35-7820	マリン事業部 NTP マリーナりんくう
33	株式会社師崎ヤンマー商会	475-0837	愛知県半田市有楽町 6-108	0569-23-1571	M-power
34	ニュージャパンマリン株式会社	515-0501	三重県伊勢市有滝町 2259 番地	0596-37-6000	
【関西エリア】					
35	株式会社長龍マリーナ	523-0807	滋賀県近江八幡市中之庄町 1075	0748-32-5602	
36	有限会社ポートセンター二色の浜	597-0062	大阪府貝塚市澤 334 番地の 1	0724-38-9822	
37	有限会社佳祐	641-0014	和歌山県和歌山市毛見 1530 番地	073-441-8888	和歌山マリーナ内
38	兵庫トヨタ自動車株式会社	651-1302	兵庫県神戸市北区藤原台中町 5-5-35	078-982-1275	
39	シーサイド倶楽部有限公司	671-1321	兵庫県たつの市御津町苅屋 1131-1	079-322-8000	
40	株式会社ポートオブ岡山	702-8016	岡山県岡山市小串 1173-2	086-269-2038	
41	株式会社広島ベイマリーナ	734-0012	広島県広島市南区元字品町 42-16	082-255-6135	
42	有限会社ビューマリン	721-0956	広島県福山市箕沖町 78-1	084-954-5055	
43	ツネイシ境ガ浜リゾート株式会社	720-0313	広島県福山市沼隈町大字常石 1083 番地	084-987-3460	境ガ浜マリーナ
44	株式会社竹原マリン	725-0013	広島県竹原市吉名町 4501-2	0846-28-0373	
45	呉マリン有限公司	737-0012	広島県呉市警固屋 9-6-3	0823-28-1344	
46	海望企画株式会社	761-8031	香川県高松市郷東町 796-53	087-882-6800	ピアマリーナ高松、マリーナベラガス
47	新居浜マリーナサービス株式会社	792-0872	愛媛県新居浜市垣生 3 丁目乙 324 番地	0897-46-5636	
48	株式会社海援隊	818-0035	福岡県筑紫野市美しが丘北 1-4-1	092-555-4801	
49	有限会社山崎ヤンマー	819-1334	福岡県糸島市志摩岐志 360-1	092-328-2340	ヤマサキマリン
50	長崎サンセットマリーナ株式会社	850-0068	長崎県長崎市福田本町 1892	095-865-3000	
【営業所】					
51	トヨタマリン営業所	443-0014	愛知県蒲郡市海陽町 2-1	0533-58-2451	☎ 0120-532-451 (受付時間 09:30 ~ 17:45 除く水・木) TOYOTA MARINE ラグーナ内

PONAM 掲示板

「PONAM 掲示板」とは？

「PONAM 掲示板」はもっとも身近なクルーザー情報コーナーとして読者の皆様に有益な情報を提供するために、積極的に読者の皆様からのご意見・ご要望・ご提案を取り入れていきたいと考えております。今までクルーザーとの関わりが少なかった方がクルーザーに関心を持ってもらえるような情報、クルーザーオーナーがより充実したクルーザーライフを送るための情報などをお寄せください。

例えば・・・

- ・ クルーザーで行くレストランならココがオススメ！！
- ・ PONAM オーナーが集まってクルージングパーティーをやるけどどなたか参加しませんか？ etc...

ご意見・ご要望・ご提案は
下記メールアドレスまでお願いいたします。
info@cruiser.jp

個人情報の取り扱いについて

- ・ 本誌にお寄せいただきましたご意見・ご要望・ご提案等は、本誌内に掲載させていただく場合がございます。ただし、個人を特定できるような情報の掲載は原則いたしません。掲載する必要がある場合には、必ず事前にご本人に連絡し、承諾を得た上で掲載いたします。
- ・ お預かりした個人情報は、法律で定められている場合を除いて、ご本人の同意を得ず第三者に提供することはありません。
- ・ お預かりした個人情報は、お問い合わせに対する回答を行うため、アンケート調査やモニター募集のためにご利用させていただく場合がございます。



Editor's VOICE

海外と違って、日本ではクルーザーのあるライフスタイルがなかなかイメージしにくい環境にあります。今年行った調査では、クルーザーでどこへ行って何ができるのか、メンテナンスはどうすればいいのかなど、クルーザーとの接触機会がほとんどなく、情報や関心を持つきっかけがあまりにも少ないことが大きな理由となっていることが見えてきました。また、日本では「船釣り」というイメージが強く、「非日常」や「ゆったりとした空間」としてのイメージを持ちにくくなっています。

そこで、「トヨタのクルーザーであなたの人生を豊かに」をコンセプトに、クルーザーによって新たな豊かさをもたらされ、人生がより充実したものになるようにとの願いを込めて情報誌「トヨタマリナーオーナースタイル」を創刊いたしました。

本誌は、クルーザーオーナーなどへのインタビュを通してクルーザーの魅力を伝え、クルーザーやマリナーに関するここでしか手に入ら

ない情報を提供することによって、もっとも身近なクルーザー情報誌を目指します。

本誌のユニークなところは、すでにクルーザーを保有しているオーナーへのインタビュなどのオーナーサイドからの情報の発信と、100人アンケートなどの非オーナーサイドからの情報による新たな気づきの、二つの側面からアプローチしていることです。そのため内容に違和感を感じる方々もいらっしゃるかもしれませんが、二つの側面からの情報が融合することによって、オーナー、非オーナーに関わらず、クルーザーのある新しいライフスタイルが提案できれば、編集長冥利に尽きます。

また、双方向の媒体となるよう、今後は読者の皆様からのご意見・ご提案を取り入れることで、ダイレクトな、そして新たなクルーザーの魅力や価値を伝えていくようにしていきたいと思っております。今後とも「トヨタマリナーオーナースタイル」をご愛顧のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

編集長 増淵 達也

2013年8月



発行人：トヨタ自動車株式会社

編集長：増淵 達也

編集：宇賀持 一弘

スタッフライター：金子 ゆいこ
近藤 伶音
高橋 明希
松長 陽平
丸橋 美樹
山下 萌

フォトグラファー：中村 俊哉

アートディレクション：中村 謙治

写真提供（一部）：STARBAY (P.38-39)

【取材協力先】

■ 櫻田 雅彦 (P.20-22)

■ 榎原 龍之 (P.24-25)

■ ラグーナ蒲郡 (P.30-33)
愛知県蒲郡市海陽町 2-1
TEL：0533-58-2800 (ラグナマリーナ)
Web：http://www.laguna-gamagori.co.jp/

■ 合歓の郷ホテル&リゾート (P.34-35)
三重県志摩市浜島町迫子 2692-3
TEL：0599-52-1111
Web：http://www.nemunosato.com/

■ K TOUCH MARINE CLUB (P.18-19)



※写真は撮影用小物、オプションパーツ等を含む特別仕様艇です。

さらに深化した美しさ。
さらに進化した快適性。

PONAM-35swは、従来のドライブアシストに
バーチャルアンカーシステムを追加し、
トヨタマリン独自の操船支援システムをさらに充実させています。
インテリアには木目調デザインを採用するなど、
機能にもデザインにもすべてにこだわり抜きました。
あなたを待っているのは、さらなる上質な「海の遊び」です。

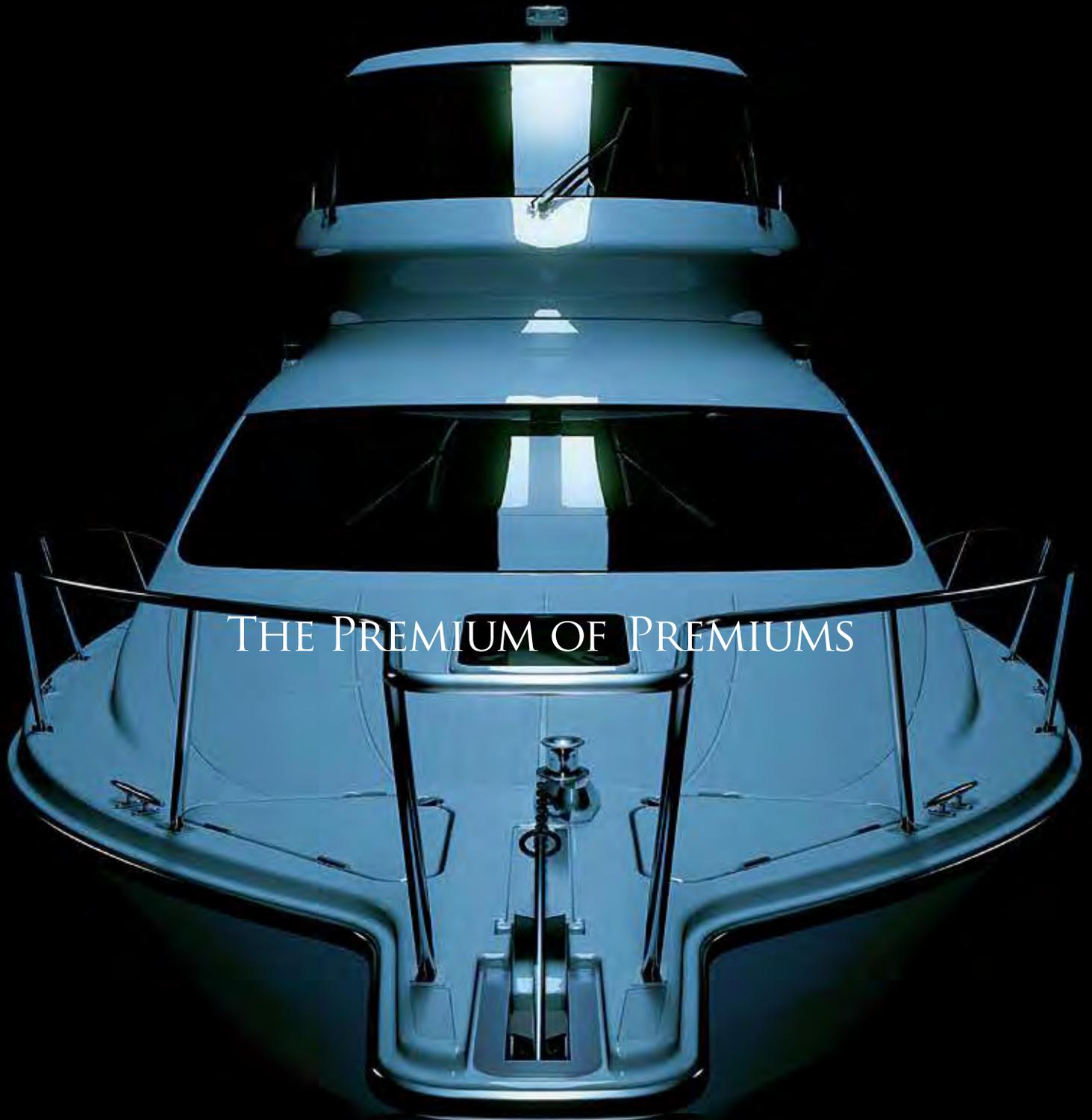
THE PREMIUM OF PREMIUMS



Premium Cruiser
PONAM-35sw
Debut!

試乗会の開催日などのご案内は、ホームページまたは、フリーダイヤルまでお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社 マリン事業部 トヨタマリン営業所 〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町2丁目1番地 ☎0120-532-451 www.toyota.co.jp/marine/



THE PREMIUM OF PREMIUMS

PONAM-35sw は、従来のドライブアシストにバーチャルアンカーシステムを追加し、トヨタマリン独自の操船支援システムをさらに充実させています。

インテリアには木目調デザインを採用するなど、機能にもデザインにもすべてにこだわり抜きました。あなたを待っているのは、さらなる上質な「海の遊び」です。

Premium Cruiser

PONAM-35sw Debut!



試乗会の開催日などのご案内は、ホームページまたは、フリーダイヤルまでお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社 マリン事業部 トヨタマリン営業所 〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町2丁目1番地  0120-532-451 www.toyota.co.jp/marine/